

百日咳に対する持続咳嗽に対してフロセミド吸入が著効した一例

南部徳洲会病院 樋口 さやか 渡慶次 賀博

大場 修治 小渡 輝雄 平安山 英達

症例：38歳男性 主訴：持続咳嗽

初めに：

百日咳は、百日咳菌が鼻咽頭・気道からの分泌物により飛沫感染・接触感染を起こし、特有の痙咳発作を特徴とする急性気道感染症である。世界の百日咳罹患者数は2000～4000万人、その90%は発展途上国の小児であり、死亡数20～40万人である。今回百日咳の持続する咳嗽に対してラシックスの吸入で軽快した一例を経験したため報告する。

現病歴：

2010.5.深夜、入院1ヶ月前から咳嗽が持続し、呼吸苦があるため当院受診。前日に当院受診し鎮咳薬を処方されていた。20：00頃に内服したが改善しなかった為再受診。来院前に車内で1回嘔吐、来院後救急外来で1回嘔吐。吐物は食物残渣のみで血液の混入なし。

発熱・痰・咽頭痛などの感冒症状なし。その他頭痛・胸痛・腹痛・下痢なし

既往歴：

小学校2年生 リウマチ熱・アトピー性皮膚炎・2009.9. 健診で脂質・肝機能異常指摘 喘息なし

飲酒は機会飲酒。喫煙なし

身体所見：

SPO2：91～92% (RA)

眼球結膜充血・whoopあり・呼吸音 両下肺野で吸気性wheezeあり

Labo：CRP：0.10 WBC：16000 マイコプラズマ陰性

来院後経過：

来院時、β刺激薬吸入2回施行したが咳嗽・呼吸困難・SPO2改善しなかったためフロセミド1ml+生食3ml吸入施行。施行後症状改善したが朝方6：00頃再び症状出現したため臨床診断より百日咳と診断し、治療目的で入院となった。

入院後経過：

入院翌日よりクラリスロマイシン200mg2錠分2、咳嗽・呼吸困難に対してフロセミド吸入で治療開始した。第5病日には36.0度台に解熱しLabo改善見られた。第7病日に東浜株640倍/山口株40倍と血清診断では百日咳と診断出来なかったが症状改善見られ、第8病日退院となった。

結語：

今回の症例は血清診断では百日咳と診断出来なかったが、臨床診断・その他の鑑別疾患の除外診断で百日咳と診断された。咳嗽が持続する患者に対してマイコプラズマだけでなく百日咳の可能性も考えるべきである。フロセミドの吸入は頑固な咳嗽に著効し、呼吸困難を改善する事が分かった。